

問1 鎌倉時代の1232年、第3代執権の北条泰時が制定した、武士の慣習や裁判の基準をまとめたわが国最初の武家独自の法典を選びなさい。（2024年 香川公立入試 類似）

1. 徳政令 2. 御成敗式目 3. 建武の新政 4. 十七条の憲法

問2 鎌倉時代末期から南北朝時代にかけて成立した、兼好法師（吉田兼好）が日々の思いや世相を綴った文学作品のジャンルと、その名称の組み合わせとして最も適切なものを次の中から選びなさい。（2019年 香川公立入試 類似）

1. 随筆：徒然草 2. 軍記物語：平家物語 3. 随筆：枕草子 4. 紀行文：おくのほそ道

問3 平安時代末期の戦乱（南都焼討）によって焼失した東大寺は、鎌倉時代に入ると宋の建築技術を取り入れて再建が進められました。この際、東大寺南大門に安置するために制作された、筋骨隆々とした写実的で力強い表現を特徴とする仏像の名称として正しいものを選択してください。（2021年 神奈川県公立入試 類似）

1. 金剛力士像 2. 阿弥陀如来像 3. 弥勒菩薩半跏思惟像 4. 唐招提寺金堂千手観音立像

問4 鎌倉幕府の三代執権である北条泰時が、守護や地頭の職務を明確にし、公正な裁判を行うための基準として1232年に制定した、日本最初の武家法律を何といいますか。（2023年 奈良公立入試 類似）

1. 御成敗式目 2. 禁中並公家諸法度 3. 公事方御定書 4. 武家諸法度

問5 元軍の襲来に備えて博多湾沿岸に築かれた「防塁」について、その構造や役割を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2023年 高知公立入試 類似）

1. 元軍が馬で容易に上陸できないように、海岸沿いに石を高く積み上げ、集団での進撃を妨げた。 2. 敵の侵入を遅らせるため、居住地の周囲に深い溝を掘り、そこに水を満たして防御を固めた。 3. 大宰府を防衛するため、平地に巨大な堤防を築き、その外側に水を蓄えて敵の進軍を遮断した。 4. 山の中腹に石垣を巡らせ、敵を見下ろせる高い位置から矢や石を放って攻撃するようにした。

問6 武士が元軍の船に乗り込んで戦う様子を描いた『蒙古襲来絵詞』という記録が残されている歴史的出来事について、その時代区分と名称の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。（2025年 北海道公立入試 類似）

1. 時代区分：中世、 名称：元寇 2. 時代区分：古代、 名称：元寇 3. 時代区分：中世、 名称：倭寇 4. 時代区分：古代、 名称：倭寇

問7 鎌倉幕府における「将軍と御家人の関係」を模式図で表すと、御家人から将軍に向かう矢印として「奉公」という言葉が示されます。この「奉公」の具体的な内容として説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 岩手県公立入試 類似）

1. 戦時には命をかけて軍役を果たし、平時には京都や鎌倉の警備などの番役を務めること 2. 先祖伝来の領地の支配権を認めてもらったり、手柄に応じて新たな土地を与えられたりすること 3. 地方の政治を監視するために全国の国ごとに配置され、軍事・警察の権限を行使すること 4. 荘園や公領の管理を任せられ、農民から年貢を取り立てて幕府や領主に納めること

問8 ある家系の記録によると、1240年頃には一族の多くの者が領地の相続に関与していましたが、鎌倉幕府が滅亡する1333年頃になると、相続人が非常に少数に絞られる変化が見られます。この1240年頃に行われていた、複数の子に領地を継がせる相続方法を何といいますか。（2023年 熊本県公立入試 類似）

1. 単独相続 2. 分割相続 3. 永代売買 4. 地頭請

問9 鎌倉幕府の「御恩」と「奉公」という仕組みにおいて、その関係性の特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2023年 群馬県公立入試 類似）

1. 将軍が御家人の領地を保証する代わりに、御家人が軍役などの義務を果たすという、土地を仲立ちとした双方向の関係。 2. 将軍がすべての土地を直轄地とし、御家人がそこから得られる年貢を徴収して将軍に納めるといふ、一方的な従属関係。 3. 朝廷が認めた貴族の領地を将軍が奪い、その土地を御家人に平等に分配して耕作させるといふ、共同体的な関係。 4. 御家人が自らの意志で土地を将軍に献上し、その代償として将軍が御家人を官位に任命するといふ、名譽に基づいた関係。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 御成敗式目	第3代執権の北条泰時は、武家社会に伝わる慣習や道徳（道理）をもとに、裁判を公平に行うための基準を全51箇条にまとめました。これは制定された年の元号から「貞永式目」とも呼ばれます。これ以降、この法典は後世の武家法の規範となりました。
問2	答え 1 随筆：徒然草	鎌倉時代末期から南北朝時代にかけての社会の変動期に、兼好法師によって書かれた作品は『徒然草』です。これは清少納言の『枕草子』、鴨長明の『方丈記』と並び、日本三大随筆の一つに数えられます。作者の兼好法師は出家した身であり、仏教的な無常観を背景に、当時の人々の生き方や自然の美しさを独自の視点で描きました。
問3	答え 1 金剛力士像	鎌倉時代初期、重源らの尽力によって東大寺の復興事業が行われました。南大門に安置された金剛力士像（仁王像）は、阿形（あぎょう）と吽形（うんぎょう）の二体からなり、当時の武士の気風を反映した力強い作風が特徴です。これらは、運慶や快慶らを中心とする「慶派」の彫刻家集団によって、わずか70日足らずという短期間で造り上げられました。
問4	答え 1 御成敗式目	北条氏が執権として政治の実権を握っていた時期、武士社会でそれまで慣習的に行われていた決まりを明文化したものです。これは武士のみに適用される法律であり、江戸時代に定められた大名向けの「武家諸法度」や、朝廷向けの「禁中並公家諸法度」、江戸中期の裁判基準である「公事方御定書」とは時代背景が異なります。
問5	答え 1 元軍が馬で容易に上陸できないように、海岸沿いに石を高く積み上げ、集団での進撃を妨げた。	防塁は、元軍が得意とした騎馬による機動力や集団戦法を封じ込める目的で建設されました。博多湾の砂浜沿いに石を積み上げたこの障壁により、二度目の襲来である弘安の役では、元軍は海岸線からの上陸を断念し、船上での戦いや志賀島などへの移動を余儀なくされました。選択肢にある「居住地の周囲に深い溝を掘る」のは弥生時代の環濠集落の特徴であり、「大宰府を防衛するための堤防」は飛鳥時代の水城を指します。
問6	答え 1 時代区分：中世、 名称：元寇	日本の歴史において鎌倉幕府が政権を担っていた時期は「中世」に分類されます。この時代に発生した元（モンゴル帝国）による日本侵攻は「元寇」と呼ばれ、当時の社会や武士の生活に大きな変化をもたらしました。「古代」は平安時代以前を指し、「倭寇」は中世から近世にかけて活動した海上の集団を指す言葉であるため、時期と内容の両面で誤りとなります。
問7	答え 1 戦時には命をかけて軍役を果たし、平時には京都や鎌倉の警備などの番役を務めること	奉公の具体的な内容は、軍事的な貢献と警備の義務に大別されます。「いざ鎌倉」と言われるように、戦時には軍勢を率いて駆けつける「軍役」が課せられました。また、平時には「京都番役」や「鎌倉番役」として、重要拠点の警備（番役）を担当しました。一方、土地の支配を認めるなどの行為は将軍から御家人への「御恩」にあたります。
問8	答え 2 分割相続	鎌倉時代初期、武士は自分の所領を子たちに分散して継承させる「分割相続」を行っていました。しかし、この仕組みは領地の細分化を招き、御家人の経済的基盤を弱体化させました。そのため、時代が下るにつれて、一族の長（惣領）が領地を一括して受け継ぐ「単独相続」へと、相続のあり方が変化していきました。設問にある1333年頃の状況は、まさにこの相続形態の転換期を反映したものです。
問9	答え 1 将軍が御家人の領地を保証する代わりに、御家人が軍役などの義務を果たすという、土地を仲立ちとした双方向の関係。	鎌倉時代の主従関係は、単なる精神的な忠誠心だけでなく、「土地」という具体的な利益を介した契約的な性格を持っていました。将軍が御家人の領地（私有地）の所有権を公的に認める「御恩」があるからこそ、御家人は命をかけて戦う「奉公」を行うという、互恵的な仕組みが成立していました。これを封建制度と呼びます。